

OKIグループのマテリアリティ

社会やステークホルダーの期待・要請を踏まえてOKIを取り巻く社会課題を再整理を行ったうえで、中期経営計画2025の策定にあわせてマテリアリティをアップデートし、日々の事業活動の中で推進しています。

中期経営計画2025とあわせて マテリアリティのアップデートプロセス

社会やステークホルダーの期待・要請と
OKIを取り巻く社会課題を再整理

Step1

社会課題リストの作成

外部指標などから約330の社会課題を抽出。事業との親和性などから絞り込み、約40項目に整理

- UNGC10原則、SDGs 169項目
- WEF Global Risk
- ISO26000
- 経団連企業行動憲章
- UNGP
- TCFD・GRI・SASB
- RBA／JEITAによる企業行動ガイドライン など

Step2

ステークホルダー評価

各課題につき、社外有識者を変え、複数の観点で重要性を評価

- ESG評価機関の評価項目との関連性
- 各種対話における投資家意見との関連性
- 顧客のサプライヤー要請、同業他社の重要課題などとの関連性

Step3

ビジネス評価

サステナビリティ推進WG（当時）ははじめ各課題に関連する活動が想定される部門において、評価・分類を実施

- 売上／コスト／評判／コンプライアンス／技術・市場の観点でリスクと機会を評価
- 短期／中長期の時間軸で分類

Step4

マテリアリティをアップデート

Step2、3で高評価となった社会課題をグルーピング、中期経営計画2025における戦略や貢献分野を踏まえマテリアリティとして整理。経営会議・取締役会を経て決定

OKIのありたい姿と貢献分野を
踏まえてアップデート

「社会の大丈夫をつくっていく。」企業としてサステナビリティ経営を実践

OKIのありたい姿と貢献分野

社会課題を解決するモノ、コトの実現

- 安心・便利な社会インフラに貢献
- 働きがいと生産性向上に貢献
- 地球環境の保全に貢献

事業活動を通じた環境負荷低減

- 自社拠点の環境負荷低減

価値を創出し続ける 企業文化への変革

- 全員参加型イノベーションによる価値創出
- 多様な人材が前向きに活躍できる施策の推進

持続的成長を支える 経営基盤強化

- リスク管理・コンプライアンスの徹底
- 人権尊重の徹底
- 責任ある調達活動の推進

重要課題（マテリアリティ）

社会やステークホルダーの期待・要請とOKIを取り巻く社会課題